報告書第2号　夏野菜の収穫・みんなで実食　5月・6月・7月

≪活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者とのかかわり≫

今回の活動では、保育者が問い掛けるのではなく、子どもたちが栽培活動を行う中で感じたことや疑問に思ったこと、時には突然起こったトラブルでの子どもたちのつぶやきを逆に取り上げ、全体への問い掛けとした。

6月。野菜の苗を植えてから１か月以上が経ち、子どもたちは毎日の水やりや観察の中で、野菜の小さな生長・変化にも気づくようになり始めた。水やりではただ水をあげればいいのではなく、あげすぎに注意することや天候によって土の様子が違うことなどにも気づく子もいた。

そして、花が咲くと保育者が教えるわけではないが、図鑑からピックアップした資料を片手に、花の色から何の野菜かを友達と相談したりクイズを出し合ったりする姿が見られた。

時には、５月の中旬に台風に遭遇し、強風によりナスの苗が１本折れてしまった。「もしまた台風が来たらどうしたらいいか？」、「野菜を守るにはどうしたらいいか？」を考える子も出始め、安全な場所に子どもたちが力を合わせて重いプランターを移動させたり、テレビで放送されている天気予報に関心を示したりする子もいた。それぞれ自分の興味のあることや、得意とすることをクラスの友達に自慢気に報告・伝えていた。台風などの自然災害を体験することで、野菜を育てる大変さや苗が折れてしまったことに対し悔しさなども感じていた。子どもたちの色々な思いが感じられた活動となった。



「水あげすぎ注意！」の看板

「水いっぱいだとお腹痛くなっちゃうんだって。」
「ナスさん、苦しくならないように（少しずつ水を）あげようね♪」

ピーマンやきゅうり、ナスが実り始めました！！　その中で子どもたちの気付きもあった。



野菜の資料を片手に友達となんだか相談中？？



※右記の資料を片手に友達と花の色から何の野菜かを調べている子どもたち。

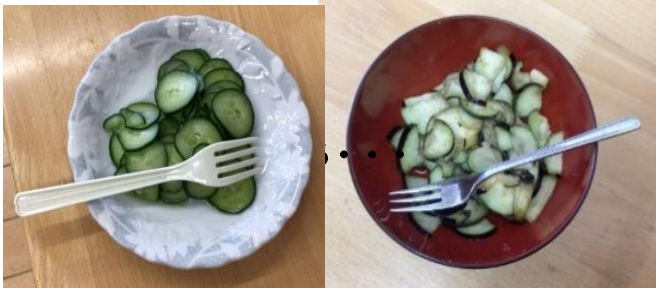
「あれ、この花白いね。ピーマンだ！」
「ナスの花は、紫色だよ。」
「きゅうりの花の所に、きゅうりの赤ちゃんがいる。」

収穫したナスやキュウリを実際に昼食時にスライスし、塩揉みをして食べた。
日頃野菜好きの子もいれば、野菜嫌いの子、そして食わず嫌いの子と様々いる。しかし、自分たちで育てた野菜は特別のようで、中にはみんなで食べることで、友達の美味しそうに食べる姿を見て、挑戦する子もいた。
野菜に興味を持ち、食べるきっかけ作りになった。
皆で食べる中で、匂いや味、感触など五感を使って食することが出来た。
そして、後日他学年にもおすそわけをし、自慢げに「これ美味しいよ！」と進める姿があった。

5月の中旬に立派な？？お化けきゅうりが2本🥒
6月に入り・・・
ナスとピーマンが無事に収穫できた☺







頑張ったんだけど、味が・・・



ちょっと苦いけど、
おいしい！



水の味がする
かも？

シャキシャキする！



おかわりある？



野菜を育てる中には、時にはアクシデントも！！



5月の中旬、台風のような風の強い日。
悲しいことにナスの苗が1本折れてしまう。野菜を育てる中で自然の大切さも分かるようになってきたが、逆に自然の凄さ（ここでは風の怖さ）を知った子どもたちです。この頃から、テレビのお天気コーナーに興味をもつ子もでてきた。「明日、大雨だって。」「野菜を（安全な所に）お引越ししよう！」とみんなで重いプランターのお引越しをすることもあり、逞しい子どもたちです！　栽培する中で先を見通すこともできるようになってきた。

≪振り返り≫

この夏は酷暑や台風の影響などもあり、栽培に大分苦戦をした。しかし、そのような悪天候によって野菜栽培の難しさを子どもたちなりに体験・体感することが出来た。失敗や突然のトラブルも良い経験となった。また、野菜の生長にも敏感になり、小さな変化にも気づきそれを子どもたち同士で伝えあったり、議題として取り上げたりすることで探究心も個人差はあるが出てきた。図鑑やラミネートされた資料もこの頃より子どもたち自ら利用する姿も見られはじめ、友達と相談したり確かめ合ったりと積極的に取り扱っていた。

反省としては、天候も影響するが調度良い収穫時期が、夏休み中ということもあり子どもたちが実際に収穫したり食べたりしたりする回数が少なくなってしまったことが残念である。子どもたちからも違う野菜も育ててみたいという意見も出ているため、3 学期にまた挑戦する機会を作りたいと思う。今度は、今回の栽培活動で学んだことを生かし、子どもたちと一緒に土作りから行うなどステップアップを図りたい。